
傭兵の国盗り物語 人物設定集

ドラキュラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傭兵の国盗り物語 人物設定集

【Nコード】

N3227Y

【作者名】

ドラキュラ

【あらすじ】

5大陸を統一した男は異世界から来たという「鷹見徹夜」という男は傭兵でありながら5大陸を統一し最終的にはサルバーナ王国の国王となった。

彼の下には様々な人物たちが集まり共に統一へと向けて走り続けた。

ここに載せるのはその者たちの経緯である。

鷹見徹夜（前書き）

傭兵の国盗り物語をご愛読の皆様ドラキュラです。

今回、人物が多過ぎると言う事もあり人物設定集を設ける事に致しました。

とは言っても登場人物をそのままこちらへ移すだけですが、居る国などは別けておきます。

これで皆様が少しでも気軽に読める事を祈ります。

鷹見徹夜

名前：鷹見徹夜

身長：185cm

体重：75kg

年齢：33歳 享年95歳

職業：陸上自衛隊東部方面隊第1空挺団 フランス外人部隊第二落
下傘連隊GCP 傭兵 サルバーナ王国の武将 サルバーナ王国国王

階級：少佐 大佐 元帥

衣服：迷彩服にバンダナとブーニー・ハットにジャングル・ブーツ

装備：AKMアサルトライフル、コルトM1911A1、同田貫

特技：暗殺、格闘技、ブービー・トラップ、武道

異名：不死身の男、傭兵王、隻眼の鷹、醜男、卑怯者、下種な傭兵、
戦争の犬

嗜好：煙草、酒、女

座右の銘：作戦は奇を以てよしとすべし

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：異世界に迷い込んだ日本人の傭兵で上から下まで傷だらけで無頼者に見えるが、何処か愛嬌がある人物。

ひよんな事からサルバーナ王国の王女を助けて女王の客人として王宮に住み着く結果となり聖騎士団の一員になる。

皮肉屋の天の邪鬼で、勝つ為なら手段は問わないという性格の持ち主で騎士などからは「犬」、「卑怯者」、「薄汚い傭兵」などと渾名されている。

更に顔も決して美男子とは言えず貴族などからは「醜悪な顔立ちで見るのも憚る」と言われていたらしく勝利の宴に置いても彼に近づく者は居らず、敵側の将に集まっていたと言われている。

また極度のヘビー・スモーカーで煙草を吸わない日はなく常に煙草を口にかけている。

傭兵になった理由は「極限状態のスリルを楽しむためであり、それ以外の道を選べない」からと言っているが、別の理由もあるらしい。

武器はAKMアサルトライフルとコルト・ガバメントで風呂に入る時も寝る時も傍から離さないなど用心深い性格でもある。

また武道にも精通しているが、ランドルフ曰く「変則技を必ず使う」と言われるほど卑怯な手を使っていたらしい。

これは戦争にも当て嵌まるようで奇襲戦法や錯乱戦などにかく相

手を混乱させる手段が多いと歴史研究家の間では知られている。

内乱を終結した後は一時的にだが、行方不明と言う事になったが後に発見されてサルバーナ王国の武将に戻る。

その時、片目を失った事から隻眼の鷹などと言われるようにもなったが、銅像などでは両目が入られている。

ムガリム帝国の毒牙から抵抗する為に4ヶ国を指揮する連合軍の長となり、攻撃を仕掛けてきたムガリム帝国を打ち倒し5大陸を統一した。

後にサラと結婚してサルバーナ王国の新王として担ぎ上げられる事になったが、その他にも大勢の王妃達と暮らしたと言われている。

王になってからも常にお忍びで城下に出ては民達の生活などを詳しく調べて、地方の声を聞いて政治を行い民達からは慕われていた。

95歳で崩御するが、ランドルフが書いた史書により後々の世まで名君であり名武将と謳われ「傭兵王」として後世に名前を残す事になる。

ランドルフの史記によると「皮肉屋で挑発的おまけに残酷な所もある」と書かれているが「それを補うだけの魅力に溢れており、特に歳若い者たちからは父や兄のように慕われていた」と書かれている。

更に周りからは「勇敢で情に厚いが情に流されない。極度な程にロマンチストで臆病」とも言われていたと書かれているが、ランドルフ自身は「ロマンチストで臆病な所は分からなかった」と付け足している。

これは4ヶ国でも同じ事で彼に対する性格は魅力に溢れていると書かれており、必ずロマンチストで臆病と書かれている。

またこの魅力は敵側にも通じたようでムガリム帝国から連合軍に鞍替えする者が続発するほどであったとされている。

彼に対する逸話は数多くあり、一度は死んだと言われていたが別の国で見つかったなどと言う逸話がある。

海では怪物と死闘を演じた、魔物を虜にした、素手で10人の敵を倒したなど伝説的な逸話が多くありランドルフの書いた史記でもそれが幾つか載せられている。

ランドルフ・クリフ

名前：ランドルフ・クリフ

身長：175cm

体重：50kg

年齢：17歳 享年95歳

職業：聖騎士団の見習い騎士 サルバーナ王国の武将 將軍補佐官

階級：見習い騎士 2等兵 1等兵 少尉 中将

衣服：青銅の鎧と両刃の剣 迷彩服にバンダナとブリーチ・ハット
にジャンゲル・ブーツ

装備：SKSカービン、ベレッタM92F、モーゼルkar98k、
AKS-74U

特技：剣術、狙撃、射撃

異名：坊や、坊ちゃん、リンクス、傭兵王の片腕、変化自在の死神、
災いを呼ぶ悪魔、白い翼を持つ悪魔、守護神、女殺し、天然たらし、
鈍感男、鈍感王

嗜好：煙草、酒、読書、家族サービス

座右の銘：一撃必殺

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国に仕える聖騎士団に所属する見習い騎士で王女を護衛中に山賊で襲われた所を鷹見徹夜に助けられた。

その後、聖騎士団に入隊した鷹見徹夜とコンビを組み様々な体験をして成長して行く事になる。

後にサルバーナ王国の内戦に巻き込まれて、鷹見徹夜と共に内戦を生き抜いて正式に騎士になり鷹見徹夜と一緒に5大陸統一の任務に当たった。

5大陸統一後は若干19歳という異例の若さで中將に出世して、長年連れ添った娘達と結婚して5児の父親となり徹夜とサラの結婚式の時には仲人役になった。

鷹見徹夜が95歳で崩御した後、正后であるサラから史書を書く事を頼まれて最後の任務として史書を書き上げた。

鷹見徹夜と同じく95歳で死亡するが、その死に様は座ったまま往生するという死に方で今でも語り草となっている。

鷹見徹夜と同様に「サルバーナ王国を救った英雄」として歴史に名を残す事になる。

彼が使用した武器は家族たちに受け継がれて鷹見徹夜の武器などと同様に民達が見られるようにされた。

彼をよく知る人物たちの間では「一見もやしのような男だが、戦の事になれば鋭い目つきとなり背筋が凍りつく」と言われている。

更に彼が受けてきた任務はどれも無理に近いと言えるような任務が多かったとされているが彼はそれを一つもミスをせずにこなしてきたと言われている。

その中には殿もあり、味方からは「守護神」という異名を頂戴したと言われている。

彼に対する逸話は戦場を駆け巡った二人の妻が彼と共に戦で見た出来事である。

特に狙撃に対する逸話が多い。

ある任務で1週間ほど水だけで敵奥地まで進み、敵をスコープ無しで一撃で仕留めた。

任務から帰ると、糞尿などがズボンに垂れ流しされていたらしい。

またある任務では敵兵のスコープを狙い、スコープを貫いて殺したとも言われている。

最終的な戦果は1000人以上とも言われており、場所に因んだギリ・スーツを着込み、スコープ無しで相手を狙う事から「変化自在の死神」と渾名された。

射撃の腕は超が付く一流で700m以内なら確実に相手の胸を、500m以内なら頭を撃ち抜ける程の腕前だったらしい。

座右の銘である一撃必殺は、狙撃手に求められる事であるため狙撃手達にはこれを目標としている。

またブーニー・ハットに白い翼を一枚だけ取り付けており、彼が活躍したアガリスタ共和国では「勇者」という意味合いから彼の銅像には必ず白い翼を色で付けられている。

こと恋愛に関しては恐ろしいほど鈍感だったらしく、一人目の妻に首っただけで残り妻たちの想いは周りから指摘されるまでまるで気付かなかったと言われている。

その為か周りからは「鈍感王」などという有り難くも無い名前を頂戴したらしく、また天然の女たらしであったとも言われている。

サラ・ロクシャーナ

名前：サラ・ロクシャーナ

身長：168cm

体重：45kg

年齢：29歳 享年91歳

職業：サルバーナ王国の女王 サルバーナ王国国王の第一王妃

衣服：青を主体にしたドレス

装備：ウルサーPP

特技：歌、裁縫

異名：聖母、傭兵王の最も愛した妻、お人好し、賢母

嗜好：読書、遠乗り、お忍び

座右の銘：常に民の事を考える

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国第12代目国王、ガルバーの妻にして先代王

の娘。

ガルバーと14歳の時に結婚して翌年に長女、エリーナを儲けるがそれ以外で男女の関係は無いとされており、夫婦仲も悪かったと言われている。

ガルバーが戦で領土を広める事を余り快く思わなかった面があり、尚且つ側室の虐めになどにもあっていたと後に語っている。

ガルバー亡き後は臣下たちからの強い勧めで女王として王国を統治し、側室の子であるリカルドにも愛情を掛けた積りだが、謀反の疑いがあると知り辺境の地へ幽閉した。

国民からは愛されていた模様で、内乱の折りに首都を脱出して戻って来ると国民から歓声で迎えられた事が何よりの証拠。

鷹見徹夜を内乱の折りに負傷したプロイセンに代わる戦闘指揮官に任命し、内乱を治めた後はプロイセンからの進言もあり武将へと任命している。

5大陸を統一後に鷹見徹夜と正式に結婚し正後の地位になった。

戦には一切出ず、口を出さないで常に影で夫を支える事にあくまで徹していたが主に政治的な面で力を発揮した。

それは内乱の時もそうであつたらしく、「全て貴方にお任せします」と無責任とも取れる言い方をしたらしいが、人を見る目に長けていたらしい。

ランドルフの書いた史記では「傭兵王に最も愛された妻」と書かれ

ており周囲からもその様子が窺われた様子。

鷹見徹夜が崩御する前から身体を壊していたが、鷹見徹夜が崩御して更にそれは悪化したと言われている。

ランドルフに史記を書くように頼み、それを聞き終えてから夫の後を追う様にして病没したとも言われているが、鷹見徹夜から渡された拳銃で自殺したとも言われており定かではない。

ガルバーとの間に儲けた娘のエリーナとは仲の良い関係で一見、姉妹に見られるほど美貌の持ち主であったと言われている。

また人を疑わない性格と包容力から「聖母」と鷹見徹夜からは呼ばれたらしい。

だが、人を疑わない点が仇となり内乱を起こす事になったと指摘されている。

後に彼女が書いた日記が発見された。

内容は日常生活からガルバーとの結婚生活、そして鷹見徹夜との出会い、内乱などが詳しく書かれていた。

そこで内乱が起きた事を後悔している、書かれており自分の責任であるとも指摘していた。

日記では鷹見徹夜の人柄や夫婦生活などが鮮明に書かれおり彼に対する熱烈な想いまで書かれていた。

その中には双子の姉の件や臣下が勝手に鷹見徹夜を国外追放に処し

た事、鷹見徹夜が行方不明になった事に関する事が事細かく書かれており、特に鷹見徹夜が行方不明になった所は所々が滲んでおり涙を流していたと思われる。

結婚後の部分は「幸せな時間」と表記されており、夫婦円満と見受けられる。

その半面で1番目の夫であるガルバーとの生活は「不幸」とだけ書かれており詳しい内容は何一つ書かれていなかった。

プロイセン・マクシリアン

名前：プロイセン・マクシリアン

身長：187cm

体重：70kg

年齢：45歳 享年80歳

職業：サルバーナ王国の武将

衣服：鋼と赤を主体にした鎧

装備：同田貫、コルト・コンバットコマンダー

特技：剣術、馬術、戦術

異名：サルバーナ王国の老獅子、大陸一の剣士

嗜好：鍛錬、戦史研究

座右の銘：侵略すること火の如く動かざること山の如く

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国の軍団を指揮する総司令官で女王サラとは従

兄弟の関係でもある。

サラの夫であるガルバーと共に遠征などを繰り返したが、余りガルバーの行いを良いとは考えておらずシャインス公国の独立を認めさせるように裏で手を回したと言われている。

またガルバーより兵たちからは慕われており、「我らが親父」と言われて敬愛された模様。

宰相のゲンハルトとは何かと喧嘩をして鷹見徹夜からは「犬猿の仲」と指摘されているが、彼の腕前は買っている。

年々、軍の予算が減る事に対して些か不平不満を漏らしており内乱が起こる事もある程度の予想はしており何かしらの手を打とうとしていた。

既婚者だったが、妻を亡くしてからは独身を貫いて一人娘のリーザを男で一つで育て上げた。

相手が身内だろうと決して臆服しないなど公平をあくまで貫き、亡き妻を想い独身を貫いている姿が兵たちには慕われた要因と言われている。

鷹見徹夜を「我が息子」と称しており、リーザと結婚するように頼んだ言われており後に現実と化した。

内乱が勃発して、初戦で多くの兵を失うと共に敵の矢を5本ほど撃たれたが、死なずに居るといふ驚異的な体力を持ち合せている。

しかし、傷が元で満足に指揮が執れない事から鷹見徹夜を戦闘指揮

官に任命して退却した。

その後、サラ達と東の地へと逃げ込み傷の治療に当たると同時に作戦を立てるなどしてリカルド側をけん制した。

内乱が終結後は軍の再編と改革に乗り出し、ゲンハルトと共に他国と連合してムガリム帝国と戦う事になる。

鷹見徹夜の養父となると徹夜に前線などは任せて後方支援と後継者育てに一身を捧げた。

また晩年は孫などに囲まれて幸せな老後を過ごしたとされている。

ランドルフの史記によると「髭が立派で体格も獅子のように逞しい」と書かれていた。

剣の腕前は大層な物で、大陸一の剣士という異名を持っている。

ある戦では敵兵を10人ほど斬り殺した、両腕で魔物を絞め殺したなど、伝説的な逸話が多く残されており鷹見徹夜と並び後世からの人気は極めて高い。

リーザ・マクシリアン

名前：リーザ・マクシリアン

身長：175cm

体重：59kg

年齢：24歳 享年86歳

職業：天馬騎士団団長 サルバーナ王国国王の第二王妃

階級：団長 中尉 大将

衣服：軽い軽鎧 迷彩服と薄緑のベレー帽

装備：AKS74-U、ベレッタM93R、コンバット・ボウ

特技：偵察、裁縫、料理、弓での狙撃、サバイバル術

異名：ウルキユレ、サルバーナ王国の戦乙女

嗜好：酒、蛇

座右の銘：疾きこと風の如く

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国の軍団、獅子頭軍団の中にある天馬騎士団を治める女騎士。

プロイセン・マクシリアンの実の娘であるが、実力で今の階級などを手に入れるなどその力量は誰もが認めている。

弓での狙撃が得意で頭の上に乗せた林檎を射抜くなどその腕前は確かで、天馬騎士団の中でも随一と言われている。

サバイバル技術では鷹見徹夜の手ほどきも受けていたが、それ以前から経験しており生で蛇を食べるのも平気と言い、周囲を驚かせていた。

親衛騎士団が相手だろうと決して横暴は許さないなど潔癖な性格でも知られており内乱が勃発しそれが裏で手が引かれていたと知ると激怒したほど。

内乱が勃発してからは鷹見徹夜などと共に東のヴァイガーへと逃げ込み、鷹見徹夜の補佐役として内乱終結に全力を注いだ。

後に鷹見徹夜の軍に入り中尉という階級で迎えられて、最終階級は大将となった。

指揮する隊は天馬騎士団で内乱の折にも大いに活躍したが、内乱が終結した後は大々的な改革を行いその名を5大陸中に広げた。

主に偵察・斥候を任務としており、ランドルフのようなスナイパーと共に行動する時が多いとされている。

5大陸統一後は鷹見徹夜の第二王妃として暮らすようになるが、軍人として後継者を育てる事にも力を注いだと言われている。

ランドルフの史記では「華麗なる戦乙女」と書かれており後世では戦乙女の代名詞として名を残す事になる。

また同じ妻であるフィーナとは共に戦場を駆けた仲で互いに「生涯の戦友」と称しており仲が良かったらしい。

ワイド・リプロ

名前：ワイド・リプロ

身長：185cm

体重：85kg

年齢：33歳 享年90歳

職業：聖騎士団団長

階級：聖騎士団長 中尉

衣服：鋼色の鎧 迷彩服にブリーチ・ハット

装備：クレイモア、コルトM1911A1、RPK軽機関銃

特技：剣術

異名：聖騎士、傭兵王の相棒

嗜好：煙草、酒

座右の銘：民と国を護り忠誠を誓う

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国の教会を護る聖騎士団の長。

鷹見徹夜を当初は傭兵と蔑んでいたが、彼の人物を知るに連れて心を許して何時しか背中を護れる間柄となる。

後に内乱が勃発すると民達を戦火から逃がし、大勢の命を救った事を評価されて聖人の一人に数えられた。

内乱を終える戦いで鷹見徹夜が一時行方不明となった時は率先して皆を纏める役となった。

五大陸統一後は鷹見徹夜の仲間の一人であるミーシャ大尉と結婚して10人も子供を作るといふ大業を成し遂げ大家族となり良き父、良き夫だったと周囲からは言われていた。

鷹見徹夜より5年ほど先に死んだが最後の言葉は「先に行つて状況を確認して来る」と言われており最後まで鷹見徹夜の良い友人であったと言われている。

鷹見徹夜とは酒を飲む事が多かったらしく、共に酒豪として知られており店を何店か潰して来た為か「酒店潰し」などという有り難くもない異名を頂戴した。

彼に対する逸話は聖人に相応しい逸話が多く、死去した後も彼を崇める人が後を絶たずまた子宝を授ける者として崇められている。

ミーシャ大尉

名前：ミーシャ

身長：180cm

体重：70kg

年齢：30歳 享年90歳

職業：第45独立親衛特殊任務連隊 傭兵

階級：大尉

衣服：迷彩服に青色のベレー帽にジャングル・ブーツ

装備：ドラグノフSVD、AKS-74U、スチエツキンAPS

特技：狙撃、玉潰し、料理、サバイバル技術、空挺降下

異名：姐御、男女、怪力女

嗜好：煙草、酒、料理

座右の銘：最強の者が勝つ

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：第45独立親衛特殊任務連隊に所属していた女性隊員で、分隊狙撃手を務めていた事もある。

鷹見徹夜の部下であり皆を纏める姐御的な存在としても知られているが、その性格と強さから男であるとよく勘違いされる。

それが本人には我慢できない事である為か、それを言えば大事な弾を潰されるという悲惨な目に遭うと言われている。

内乱が勃発すると鷹見徹夜と共にヴァイガーへと逃れて軍の立て直しを図り抵抗に転じて内戦を終結に導いた。

鷹見徹夜が行方不明となった時は大尉としてワイドと共に皆を纏めて捜索に力を注いだ。

5大陸統一後はワイドと結婚し、10人もの子を作り大家族となつて良い妻、良い母として皆には知られていた。

しかし、軍人としても活躍し続けランドルフと共に狙撃手育成などに力を注ぎ多くの狙撃手を育て上げた。

イーグル1等軍曹が「特殊部隊の親」と言われるのに対して彼女は「狙撃手の母」として後世に名を残した。

座右の銘はかつて所属していた隊の標語で、常にそれを部下達に叩き込んでいると言われている。

ランドルフの史記によれば「狙撃のイロハを叩き込んでくれた方」と書かれており敬愛していた模様である。

またワイドとの夫婦仲は「お互いに信頼し合い家族を愛し合っていた。だが、喧嘩をすれば何時もワイド様を泣かせていた」と書かれており、ゲンハルト同様にかかあ天下だったらしい。

イーグル1等軍曹

名前：イーグル

身長：182cm

体重：75kg

年齢：28歳 享年93歳

職業：第75レンジャー連隊 グリーン・ベレー隊員 傭兵

階級：1等軍曹

衣服：迷彩服に緑色のベレー帽

装備：コルトM727カービン、レミントンM870フォールディングストック、ベレッタM92FS

特技：ナンパ、女性のスリー・サイズを見破る事、人身獲得術、射撃

異名：ナンパ男、女好きの権化、性欲の化身、サルバーナ王国の光源氏、未亡人殺し、ロリコン、イーグル、グリーン・ベレー、軽薄を画に描いた男

嗜好：煙草、酒、女、ギャンブル

座右の銘：抑圧からの解放

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：元グリーン・ベレーに所属していた男で中東で出会った鷹見徹夜の強さに惚れ込んで傭兵となった。

元第75レンジャー部隊に所属し、かの有名なソマリア内戦にも参加した兵で後にグリーン・ベレーに入隊した。

本人曰く「容姿端麗で頭脳明晰、女性に優しいジェントルマン」と公言しているが周りからは「軽薄で好い加減おまけに好色の塊で救いようが無い」と言われている。

また仲間達からは「こいつに惚れる女が居たら不幸になる」とまで言われているなど女に関してだらしな過ぎる面がある様子だった。

しかし、戦闘においては「一騎当千を具現化した男」と言われており、戦闘力に関しては文句の付け様が無かったようだ。

ランドルフに「人生を楽しむコツ」と「女性に対する接し方」を教え込んだ人物でランドルフの史記では「人生の師」として書かれており兄貴分として慕われていた様子。

内戦が勃発するとヴァイガーで民衆を訓練させ、鷹見徹夜の片腕として戦い内乱を終結させる事に成功した。

その後はサルバーナ王国の軍事改革に乗り出して特殊部隊育成に力を注ぎ「特殊部隊の父」として皆に愛された。

生涯、独身だったがランドルフの史記によれば「大勢の女性達に囲まれて暮らしていたし、その内の一人は特別だった」と書かれており結婚はしていないが、一人とは事実婚はしていたと思われる模様。女性の好みは「美人」であれば誰でも良いらしく、その辺が嫌われていた要因とランドルフの史記には書かれているが彼と暮らした女性達の証言では「満ち足り過ぎる生活」を送れたと言われている。

主に彼と暮らした女性達は未亡人か幼い少女だったらしく、自分好みに娘を育てる事が得意だったらしい。

この事から「サルバーナ王国の光源氏」という有り難くもない名を頂戴したが、本人は誇りにしているらしい。

座右の銘はミーシャ同様にかつて所属していた隊の標語を座右の銘としている。

また第75レンジャー連隊の標語である Rangers lead the way は、鉄腕ヴィルヘルムが指揮する撃剣隊の標語とされた。

エドリアス・モンド

名前：エドリアス・モンド

身長：179cm

体重：55kg

年齢：30歳 享年92歳

職業：司教、従軍牧師、参謀

階級：司教 大司教、大尉 参謀長

衣服：白いローブ 迷彩服にブルーニートハットとサングラスにジャン
グル・ブーツ

装備：M2カービン、ベレッタM92FS

特技：回復魔法、知識

異名：傭兵王の懐刀、名参謀、賢者、従軍牧師

嗜好：煙草、酒、読書

座右の銘：無駄な血は流さない

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国の教会で司教を務める男。

元は学者を志した経緯から未だにその知識欲は計り知れず常に新たな発見と体験を求めている。

鷹見徹夜の人柄を鋭く見抜くなど人物を見る眼は間違いなくあり、知識の面でも引けを取らない事から外交などにも長けている。

内乱の折りは鷹見徹夜と共にヴァイガーに逃げて、そこで戦闘指揮官に任命された鷹見徹夜の参謀となり内乱を終結へと導いた影の存在と言われている。

また交渉の時も相手の意を突くなどして心理的攻撃などにも長けており、回復魔法も使いこなせている。

後に連合軍の大参謀として抜擢され「傭兵王の懐刀」と渾名された。

彼の立てる作戦は「敵が攻撃せざる得ない状況に持ち込む」、「敵が降伏するしかない」、「敵を味方にする」の3つに別けられており、未だにその作戦内容は研究対象にされるほど完成度が高い。

煙草と酒が好きと言うおおよそ司教には似合わない物を好むなど破天荒な性格であるが、戦が終結した後は戦死した者達に祈りを捧げるなどしている。

5大陸統一後は司教に復帰するが、参謀と外交官の任務も兼ねており後継者の育てにも力を注いだ。

生涯を独身で通したが、ランドルフの史記によれば「女とは決して無縁では無かった」と書かれている。

更に司教なのに滅法強いとも言われている。

彼に対する逸話はワイド同様に血生臭い逸話より、その高潔な身分などからか心温まる逸話が多く残されている。

フィーナ・マレル

名前：フィーナ・マレル

身長：175cm

体重：58kg

年齢：23歳 86歳

職業：サルバーナ王国の親衛隊騎士団長 サルバーナ王国国王の第三王妃、侯爵

階級：親衛騎士団団長 中尉 大将

衣服：鋼色の鎧 迷彩服とベレー帽、ブーニー・ハット

装備：バスターソード 同田貫、AK-74（GP-30グレネードランチャー及びライフルパットを装着）、ドラグノフSVD、コルト コンバットコマンドー、ウルサーPKK

特技：剣術、乗馬

異名：偏見の塊、高飛車女、下種女、要らない荷物、親衛騎士団長、お下劣の権化、フィン

嗜好：乗馬、読書、鍛錬

座右の銘：最後の一兵となろうと任務を遂行する

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国の親衛隊騎士団の団長を務める女傑だが、自分は「選ばれた人物」という先入観から他者を愚弄する面がある。

聖騎士団を「選ばれた組織」と見ているが、内心では蔑んでおり民などにも高圧的な態度で臨むなどしている。

徹夜の事は「下種な傭兵」と称しているが、一度目は負け、二度目は市街で戦うも今度は腕の骨の関節を外されるという目に遭う。

更に三度目は地面に叩きつけられた上に刃を突き付けられるという醜態を民達の前に晒される事になった。

これにかなり激怒しているが、女王からきついお叱りを受けて出来るだけ会わないようにしている。

徹夜からは「高飛車で傲慢で偏見の眼を持つ小生意気な馬鹿娘」と称されており周囲もある程度は認めている。

後に貴族の裏切りでサルバーナ王国で内乱が起ると真つ先に鷹見徹夜徹夜を「スパイ」と断言して糾弾しようとするなど女々しい所がある。

更に見習い騎士で可愛がっていたレオン・ルソーが辞めた理由を鷹見徹夜のせいにするなど支離滅裂な部分がある。

これが経緯となったのか親衛隊騎士団の中で彼女に反発する者が多発し鷹見徹夜に浸透する者が続出するなどジレンマに悩む事になる。女王であるサラからは「真面目だけど、融通が効かない」と評されており実力は高く買われているが性格面では買われていない。

徹夜を目の敵にしていたが、戦で敵の罠に嵌り窮地に陥った所を徹夜に背負われて味方陣営に戻ってから考えを改めるようになる。

更に亡き父と共に戦った鉄腕ヴィルヘルムから騎士の心得なども教えられて騎士として成長していき敵であった叔父であったと思われたが実は本当の父親であったヴィールングとも和解する事になった。

後にレオン・ルソーとも和解して徹夜の妻の一人となり軍事面で活躍して大陸にその名を轟かせる事になった。

騎士としての性格を持ち合せながらも合理的な考えも持ち合わせるようになっただけでなく、「騎士であり軍人」であると周りからは言われていたらしい。

また鷹見徹夜より先に病に伏せて亡くなるが、生前の罪を償う言葉を言っていたらしい。

最後を見取ったのは鷹見徹夜だけなのでどんな内容かは不明だが、鷹見徹夜はそれを許しそれを聞いてから死亡したと言われている。

ランドルフの史記によれば当初のフィーナに対する感情は悪感情しかなかった、と書かれており彼自身は「下種女」と最初は書いていたが、後には「要らない荷物」と更に悪感情を持っていた事が窺える。

理由として彼女の石頭が過ぎる事と更に言えば傲慢な性格が災いした事が理由として上げられる。

しかし、少しずつ彼女の環境や人柄、成長などを見て来てからはその感情を改め始めた、と書かれており最終的には「偏見の塊だったが、最終的には良い人間になった」と書き記している。

逸話に関しては最初の方こそ酷過ぎると思えるほどボロクソに詰っているが徐々に逸話は良い物に変わって来ている。

夫である鷹見徹夜から渡されたコルト・ガバメントの小型バージョンであるコンバット コマンダーを生涯の宝として愛用していたとも言われている。

エリーナ・ロクシャーナ

名前：エリーナ・ロクシャーナ

身長：163cm

体重：49kg

年齢：15歳 享年92歳

職業：サルバーナ王国の王女

衣服：青を主体にしたドレス

装備：ウルサーPPK

特技：歌、裁縫

異名：心を射止められた王女、山猫の姫

嗜好：読書

座右の銘：民がより良い生活を出来るように

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国第12代目国王、ガルバーと妻であるサラと

の間に生まれた王女。

ガルバーよりサラの性格や容姿を受け継いでおり、王国内では彼女を愛して止まない声が上げられているほど国民には愛されている。

ランドルフと一緒に鷹見徹夜と最初に出会った人物で鷹見徹夜を恩人として、父親として見ている節があった。

母親の血を深く受け継いでいる為か、好奇心旺盛で訓練を見たりするのが事の他多かった、とランドルフの史記には書かれている。

ランドルフと後に夫婦となり、子宝にも恵まれるなど幸せな人生を送ったと本人の日記には書かれている。

彼女の日記には内乱の事は書かれていないが、腹違いの兄であるリカルドを「憐れな方」と書いている事が判明した。

またランドルフについては「とても優しくて逞しい方。この方の妻として一生涯を終えられる事が最高の幸せ」と書かれていた。

ヘン・ロビンソン

名前：ヘン・ロビンソン

身長：179cm

体重：59kg

年齢：29歳 享年90歳

職業：サルバーナ王国の親衛騎士団の副団長だったが後にサルバーナ王国の中将に出世

階級：親衛騎士団副団長 伍長 1等軍曹

衣服：白銀の鎧 迷彩服に緑色のベレー帽

装備：ステアーAUG、SIG SGR、アームスコイムGL、ブラック・ジャック、吹き矢

特技：ブービー・トラップ、偵察、格闘技、料理、助言

異名：フォックス、軍曹のお守役、ブラック・ジャック、伯爵

嗜好：酒、煙草、読書、乗馬、女性のエスコート

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

座右の銘：神出鬼没に任務を達成するべし

要約：サルバーナ王国の親衛騎士団で副団長を務める男だが、元はファイナの叔父であるヴィールングの下におり軍人でもあった。

親衛騎士団の中でも指折りの猛者として知られており格闘技から様々な分野に精通している。

鷹見徹夜の弟分であるイーグルの創設したグリーン・イーグルの初期の隊員となり後にグリーン・イーグルの分隊的な存在であるグリーン・フォックスの隊長になる。

内乱終結後の階級は伍長でランドルフ、レオン達と共にアガリスタ共和国に長距離砂漠挺身隊として潜入した。

その他にもクリーズ皇国とシャインス公国にも行った事があるなど他国に何かと精通している身でもある。

フォックスという渾名は彼が鷹見徹夜とイーグルの技術を身に付け1個小隊だけで300人の敵を圧倒したその類い稀なる神出鬼没のゲリラ戦から名付けられた。

そこでもアガリスタ共和国を始め神出鬼没の攻撃を繰り返し敵に多大な被害を与えた事によってフォックスという名を確立させた。

ランドルフ達と共に活躍し5大陸を統一後は中将となり鷹見徹夜を支え続けた。

上司はイーグルという事もあり、女好きな面はあるが節操は持って

いると言われており年下の面倒見も良い。

武器はブルパップ型のステアーAUGとSIG SGRを愛用しており口径は鷹見徹夜と同じく45口径のモデルを使用している。

銃火器以外にもブラック・ジャックや吹き矢など原始的な武器も得意としておりカードにも強い事から「ブラック・ジャック」と渾名された。

恋愛経験はあるが未だに独身で食料雑貨屋を営んでいた両親は共に死亡していないが結婚願望はあるらしい。

だが、他人の色恋に世話を焼き過ぎて女性を逃がしているとの事。

しかし、後に3人の女性と結婚し子室にも恵まれて幸せな生活を送ったとランドルフの史記には書かれている。

その内の一人が爵位を持っていた事から必然と伯爵の地位を受け継ぐ事になり伯爵となったが本人は嫌いらしく「伯爵」と呼ばれる事を毛嫌いしていた。

ランドルフの史記によれば「表面からは分からないが意外と苦労人しかも、半分くらいは自ら背負っている」と言われており世話焼きが仇となっていた、と指摘している。

だが、反面で「その世話焼きで救われた事もあるし、徹夜様同様に親しまれる要因でもあった」と書かれている。

ミレーネ・ルシアン（前書き）

登場人物が多過ぎる事に今更になって改めて気付くドラキュラです。

へんとミレーネを足すから・・・まだまだ敵側も含めると多いな
と思います。（汗）

もう少し早く気付くべきでした。

ミレーネ・ルシアン

名前：ミレーネ・ルシアン

身長：168cm

体重：45kg

年齢：29歳 享年91歳

職業：娼婦

衣服：紺を主体にした妖艶なドレス

装備：ブローニングM1910

特技：舞、剣術、乗馬、射撃、床上手

異名：妖艶な花、傭兵王の影

嗜好：読書、遠乗り、射撃、旅行

座右の銘：影日向の如く支える

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国にある娼婦街を取り仕切る女性で娼婦たちか

らは姉のように慕われている。

捨て子と言っているが、本当はサラの双子の姉だったが双子という事で不吉な意味を成すという考えから産まれて間もなく捨てられた。

それをゲンハルトから教えられたが、本人は「それなら仕方無いわね」と割り切るなど何処かドライな性格も持ち合せている。

鷹見徹夜を「寂しがり屋さん」と呼んでおり彼が国外追放にされた時は一緒に付いて行くなど突拍子もない行動を取るが人を見る眼はあると言われている。

妹であるサラを他人とは見ていないが、かと言って肉親とも見ていない面が当初はあったが鷹見徹夜を愛する女としては見ていた模様。

鷹見徹夜からも愛されていた模様でサラに比べると知名度は低いとされているが、ランドルフの史記によれば「敢えて目立たないようにしていた節がある」と書かれていた。

鷹見徹夜の傍を離れずに常に影のように付いて回り支えていた事から「傭兵王の影」と渾名された。

サラに比べて武術などには心得があり、チンピラ程度なら一人で倒せると言われている。

鷹見徹夜が崩御したその日に自害した、と書かれているがその方法やどのような状況かは何一つ書かれていない。

ただし、ランドルフの史記では「徹夜様の傍に常に居る」と書かれていた。

ゲンハルト・デバンズ

名前：ゲンハルト・デバンズ

身長：178cm

体重：35kg

年齢：45歳 享年82歳

職業：サルバーナ王国の宰相

衣服：赤の文官服 迷彩服に防弾チョッキ

装備：スターム・ルガーマーク？、スターム・ルガー ミニ14

特技：口頭術、口約束、外交

異名：骸骨、腹黒宰相、骨と皮、恐妻家の宰相

嗜好：煙草、酒、映画鑑賞

座右の銘：話し合いで全てを解決させる 最悪の結末を常に考えておく

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国の宰相を務める男。

名門の出であるためか高圧的な態度に満ち溢れており、大の戦嫌いでも通っており將軍のプロイセンとは何時も喧嘩が絶えない。

しかし、プロイセンの実力は高く評価している面もあるが身分などに対しては厳格を通り越して偏見の域に達している。

先王ガルバーが行った戦により膨大な国費が嵩んだが、それでも国家破綻しなかったのは彼の高い才能だからと言われている。

鷹見徹夜を「得体が知れない」と言っては何かと偏見に満ちた態度を取りサラの不況を買っているが本人は正しいと信じている。

更に部下思いでもあり、プロイセンが部下の一人を糾弾しようとした時は真っ先に庇い立てしたが、それが内乱を引き起こす原因ともなった。

内乱が勃発するとヴァイガーへと逃げ込み、そこで自身の言動が原因と気付き一時は廃人同様に陥ったが後に復活してプロイセン同様に内乱を終える事に尽力した。

ヴァイガーで鷹見徹夜を前線指揮官に任命して自分はあくまで飾りの総大将として憚然とする事に徹した。

宰相であるが、軍に居た経歴は無い上に知識もまるで皆無という異色の宰相と知られている。

それを本人もコンプレックスに感じているが鷹見徹夜から「自分が得意とするのを伸ばせば良いだろ？」と言われて政治一筋になった。

内乱終結後は内政を一からやり直し地方出身者の者を多用して地方の声を聞く事に徹し地方の者たちとも心を通わせ始めた。

性格などが災いして40を過ぎた未だに独身だったが後に結婚をして子を儲け周囲を驚かせたと言われている。

プロイセンが亡くなった時は「喧嘩相手が死んだ」と呟いて泣き叫んだと言われている。

その2年後に彼自身も亡くなるが鷹見徹夜に今までの事を悔いながら亡くなったと言われている。

ランドルフの史記によれば「骨と皮だけの身体でよく生きてられる」と言われる程の体格だったらしいのだが、後に「肉」が付いた」と書かれた。

この事から弱々しい者が逞しくなった事に例えて「肉が付いた」と言われるようになった。

また、どうやら名宰相と謳われた彼の功績は殆どが妻に尻を叩かれて行えた事だと後に判明して後々の世まで「恐妻家」の代名詞として使われる事になる。

ランドルフの史記でもこれは書かれており「尻に敷かれ続けている」と記されており子供たちからも「常に頭を叩かれたり殴られていた」と証言されている。

だが、史記では「夫婦仲は決して悪くはない。あれはあれで一種の愛情表現なのだろう」と推測されているし子供たちも「何だかんだ

言って最終的には仲良くしている」と証言がある。

ランドルフの史記によれば癩癩持ちの性格と言われているが暴力は振るわないとも言われていたが1度だけ大勢の前で人を殴った事があるらしい。

それは鷹見徹夜が貴族に侮辱された時だったらしい。

彼はその貴族を殴り倒すと胸倉を掴み、こう言ったとされている。

『こいつはテツヤだ。タカミ・テツヤだ！サルバーナ王国とは縁も所縁も無い傭兵だ。その傭兵が我が身を捨てこの国を護ったんだ。こいつを侮辱する事は私を侮辱すると同じ事だ！』

と言われたとされており彼の言葉が貴族たちを処刑する引き金となったとも書かれている。

そのため用意周到に事を運んだ末に行う事を「ゲンハルトの引き金」と呼ばれるようになったらしい。

レオン・ルソー

名前：レオン・ルソー

身長：175cm

体重：50kg

年齢：17歳 享年79歳

職業：サルバーナ王国の親衛騎士団の見習い騎士だったが、後にサルバーナ王国の中将に出世

階級：親衛騎士団見習い騎士 2等兵 1等兵 少尉 中将

衣服：白銀の鎧 迷彩服にブーニー・ハット

装備：ベレッタM92FS、SKSカービン、コルトXM177E2

特技：ブービー・トラップ、偵察

異名：チャレンジャー、坊ちゃん2号

嗜好：酒、煙草、読書、家族サービス

座右の銘：自分の人生は自分の物

所属国：サルバーナ王国

勢力派：対内乱勢力（女王派）

要約：サルバーナ王国の子爵家の次男坊として生まれ何一つ不自由ない生活を送っていたが、親が決めたレールを走る事に対して疑問を感じていた。

そこへ鷹見徹夜と出会い、自分の人生は自分の物と言われた事から一念発起して親衛騎士団を辞め、実家とも縁を切り鷹見徹夜の軍に入隊する。

そこでランドルフと出会い生涯の親友になったと言われている。

ランドルフの史記によれば「我が生涯に置いて掛け替えの無い親友である」と書かれており彼と共に鷹見徹夜に仕えられた事を誇りにしていると書かれていた。

またランドルフと共に内乱の時にはヴァイガーへと逃げ込み、そこで戦い勝利を収めて首都を奪回する事に成功した。

ランドルフが狙撃や射撃を得意としているのに対して彼の場合は偵察と罠を仕掛ける事に長けていたと書かれている。

アガリスタ共和国においてはランドルフと共に長距離砂漠挺身隊として潜入し同国において活躍したとも言われている。

実家とは既に縁を切っているが、勝利の宴の時に両親と再会し復縁を望まれたがそれを拒否し一人間として生涯を全うすると啖呵を切ってみせた。

これには自分を息子としてではなく使える道具としてしか見ていな

い両親に失望したから、と本人は語った、とランドルフの史記には書かれている。

後にランドルフ同様に女性達と結婚して大陸統一後は中将へと出世して鷹見徹夜を支え続ける事になる。

鷹見徹夜が崩御してから直ぐに彼も身体を崩して亡くなるが、その時ランドルフに「先に行つて陣地を確保して来る」と言い残したらしい。

ランドルフが狙撃隊を指揮していたのに対して彼の場合は長距離偵察隊を指揮しており現在においても彼が指揮していた長距離偵察隊はどの隊よりも自給自足が可能と言われている。

リカルド・ウエスビー

名前：リカルド・ウエスビー

身長：178cm

体重：52kg

年齢：25歳 享年25歳

職業：サルバーナ王国の第一王子 反乱軍首領

階級：不明

衣服：黒や緑など地味な色の鎧

装備：バスター・ソード

特技：不明

異名：新国王、陛下、サルバーナ王国のハンニバル、王の鑑

嗜好：不明

座右の銘：護りたい物の為には手を汚すのも仕方なし

所属国：サルバーナ王国

勢力派：内乱勢力

要約：サルバーナ王国第12代目国王ガルバーと妾であったトレシとの間に産まれた男子で事実的に第一王子となる。

幼い頃から頭の回転が速く周囲を驚かせるも妾の子と言う事で白眼視されていたが王妃であるサラだけは彼を可愛がり実の息子のようにはしていたらしい。

15歳の時に初陣を飾り敵将の首を幾つもと上げるなど華々しい活躍を見せるも腹心のヴィクター公爵と同じく王から危険視されて辺境の地へ追い遣られた。

しかし、地方では彼の政は善政だったらしく民達からは敬愛を込めて「陛下」と呼ばれていた事からも人柄が窺える。

既婚者だったが疫病によつて失い地方を救済する為に兵を起こしたとランドルフの史記によれば書かれていると同時に「もし、あの方がサラ様の産んだ子として世に出たのなら間違いなく立派な王となられていただろう」と書かれていた。

鷹見徹夜とも面識があったらしく互いに認め合い鷹見徹夜からは「ハンニバルの再来」と言わせる程の卓越した戦術を誇っていたらしい。

首都を奪回された後は地方へと逃げ帰るも味方の裏切りで鷹見徹夜に渡されて処刑されたと言うが死体は彼の妻が眠る故郷へ内乱中でありながらも送り届けられ正式な弔いをされ三日間の休戦となった。

死してなお弔いの花は絶えないと言われているが首都では「内乱を引き起こした張本人」として未だに忌み嫌われている。

それが理由で首都を移動させたのではないかと歴史家の間では指摘されておりランドルフの史記においてもそれを匂わせる描写が見受けられた。

また処刑される時でさえ毅然としており彼の死を目撃した兵達もその態度に深く感銘すると共に内乱を起こした原因を知るや激しい憤りを覚えたと言われている。

オリガ・エール

名前：オリガ・エール

身長：170cm

体重：47kg

年齢：22歳 85歳

職業：娼婦、教師

衣服：黒を主体にしたドレス

装備：ベレッタM84F

特技：勉学、料理、洗濯

異名：姉さん女房、サルバーナ王国の教師

嗜好：読書、勉強

座右の銘：平等な教育を

要約：サルバーナ王国の娼婦街に所属する女性だが、本来は教師になりたかったらしく勉学に関しては娼婦街でも一番だと言われている。

ランドルフを男にした女性であり色々と彼に役立つ事を教えるなど

母親的な姉的な性格の持ち主でもあり愚痴も零さないなど包容力は極めて高い。

内乱終結後は子供たちに勉学を教えるなどして学問を勧めており女性の政治参加にも意欲的であるが一部の者からは「娼婦ごときが」と影口を叩いたと言われている。

しかし、それも直ぐに“消えた”らしく本人も黙して語らない事から真相は闇の中である。

ランドルフが首っただけで他の女性に気付かない事を面白い半面で可哀そうとも考えており彼に他の女性と付き合い合えと言ったらしく史記によれば「それを言われるとは思わなかった」と書かれていた。

レイテ・オース(前書き)

今度はレオンの妻であるレイテを出しますが次は・・・イザベル、
ですかね？

敵の方も順々に登場させますが先ずは徹夜側の人間を出します。

レイテ・オーズ

名前：レイテ・オーズ

身長：170cm

体重：52kg

年齢：22歳 85歳

職業：娼婦、教師

衣服：黒を主体にした妖艶なドレス

装備：ベレッタM84F

特技：子供の躰け、料理、裁縫

異名：姉さん女房、サルバーナ王国の教師

嗜好：読書、買い物

座右の銘：子供には愛情を

要約：サルバーナ王国の娼婦街に所属する女性だが、元来から子供は好きらしくオリガ同様に子供をあやす事に長けている。

ランドルフの親友であるレオンを男にした女性であり色々と彼に役立つ事を教えるなど母親的な姉的な性格の持ち主でもあり愚痴も零

さないなど包容力は極めて高い。

内乱終結後はオリガと一緒に子供たちに勉学を教えるなどして学問を勧めており女性の政治参加にも意欲的である。

しかし、オリガが子供達に勉学を勧めているのに対してレイテは身体を使った遊びなどを勧めており2人も別々の科目を得意としているようだ。

ただし、一部の者からは「娼婦ごときが」と影口を叩いたと言われているが、その者達は直ぐに“消えた”らしく本人も黙して語らない事から真相は闇の中である。

レオンにもランドルフ同様に他の女性と付き合うように言ったらしく史記によれば「2人揃って言われるとは思いもしなかった」という事だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3227y/>

傭兵の国盗り物語 人物設定集

2011年12月15日21時23分発行